

令和3年度 林野公共事業事業評価有識者委員会 議事概要

- 1 開催日時 令和3年7月19日（月） 10：30～11：50
- 2 開催場所 北海道森林管理局2階 第2会議室
- 3 出席者 委員：丸谷委員長、庄子委員、西村委員
局担当者：総務企画部長
森林整備第一課長、森林整備第一課企画係長
森林整備第二課長、森林整備第二課設計指導官
監査官、監査係長

4 議事

- (1) 森林整備事業（完了後の評価4件）について

5 議事概要

（森林整備第一課企画係長から説明）

（委員）

各事業の森林整備の面積が示されているが、これは対象となっている森林面積のうち一部のみであり、事業実施期間中において森林整備を行っていない森林もあるという理解でよいか。

（局）

そのとおりである。

（委員）

高性能林業機械とはどのような機械なのか。

（局）

高性能林業機械は、伐倒、集積、枝払い、玉切り等の機能を2つ以上もつ林業機械のことであり、具体的にはハーベスタ、プロセッサ、フォワーダ等である。

（委員）

根釧西部森林管理署の個表の中で、「評価結果」の「必要性」に、マリモについて記載されているが、直接マリモの生息域のための施業は行っているのか。

（局）

直接マリモの生息域のための施業は行っていないが、生息域の近隣での森林施業を見合わせることや、流域の奥地での森林施業をとおして、水源涵養機能や水質浄

化機能の発揮に重要な役割を果たしている。

(委員)

今回評価する4署のうち、留萌南部森林管理署のみB/Cが事業採択時と比較して増加しているのはなぜか。

(局)

主な要因の一つとして、単価が高い保育間伐や地拵えや植栽の事業量が事業採択(計画)時より多くなるとB/Cは下がることになる。逆に、単価が低いつる切りや除伐の事業量が計画より多くなるとB/Cは上がることになる。

留萌南部森林管理署では、単価が低いつる切りや除伐の事業量が計画以上に多くなったことからB/Cが上がったと考えられる。

(委員)

個表の「評価結果」の「効率性」において、「作業システムの定着が図られる」とあるが、定着が図られたのはどこなのか。

(局)

効率のよい人と機械の配置の関係による作業システムの定着が事業体や地域において図られてきているという意味である。

(委員)

留萌北部森林管理署の個表の中で、「今後の課題等」に、遠別町から路網整備等の事業の継続を要望するといった意見があるが、この意見について今後どのように対応していくのか。

(局)

遠別町の一部の併用林道について、災害により通行出来ない状態となっているため、その林道の復旧のための事業の継続を要望するといった意見である。比較的規模が大きい災害もあったため、すぐには復旧できないので周辺の事業状況も踏まえ、継続して復旧作業を行っていく予定である。

(委員)

個表の「今後の課題等」において、「担い手不足」を記載している自治体があるが、何か対策はしているのか。

(局)

林野庁で担い手対策を行っている。例えば「緑の雇用」では、新規就業者を雇用する民間事業体に研修等の費用を助成するなどの仕組みがある。また、事業体の育成のためには安定した事業量の確保が必要となるので、一昨年スタートした森林経

営管理制度において「意欲と能力のある林業経営者」に経営を委託する仕組みも講じている。国有林においてもこうした民間事業者への事業発注等を通じて支援している。

(委員)

水源涵養機能や山地保全機能は便益に入れているが、生物多様性保全やレクリエーション機能等については評価しないのか。

(局)

便益としては見込んでいない。

(委員)

今回の事業評価を通じて、今後の事業を行う上で改良する点等があったのか。

(局)

各自治体から事業の継続を求められているので、地域の要望や要請を的確に把握し、次の計画期間にそれらを盛り込み、継続して事業を実施していく。

(委員)

同じ対象地において、過去に事業評価を行った際のB/Cで比較はしていないのか。

(局)

計画の対象となる森林の齢級構成等により、森林整備の内容等が異なるため、単純にB/Cの違いにより過去の事業との比較（良し悪しの判断）はできないと思われる。ただ、過去の事業評価との比較（B/Cがどのように変化しているか）は興味深いので見てみたい。

以上